

せら

ワイン

SERA WINE SINCE 2006



醸造長の行安さん(左)と平田主任の2人が中心になってせらワインを造る。ぶどう収穫期の9~10月半ばはスタッフ総出で仕込みをするため大忙し。

特集 ほろ酔い

みはらっせ

三原といえば”酔心”、世羅といえば”せらワイン”と、今ではまちの特産品を代表する2つの銘酒。その評価も高く、数々の賞を受賞しています。今回はそんな”みはらっせ” 2大銘酒のご紹介。どちらも若いパワーが造りあげる至極のお酒。買って帰って今夜はあの人とゆつくり一杯いかがです？

酔心

MIHARA SUISHIN SINCE 1860



“丸に井桁”の家紋と山の文字が入った軒丸瓦…堂々とした酔心の酒蔵は築100年以上になるそう。六代目社長の山根さん(右)と蔵案内の達人・部長の坂井さん。

みはらっせの コレナントナー その8



「コレナントナー」はみはらっせエリアで発見した、読者のみなさんの「これ何だ?」に編集室がお応えしていくコーナーです。



世羅町・二重の目鏡(?)橋

めがね

旧国道の下から見ないと気付かない!ひっそりと、そして堂々と石の橋がのどかな農村風景に現れる。急斜面の草刈は大変そう。



今年の夏にあった「タイムスリップ夢街道せら」のイベントに参加した編集スタッフ。まだまだ知らない世羅の歴史や建物に感動!もちろん目鏡橋にも行きました!

Q 世羅の甲山いきいき村からブラブラ散策していると石のトンネルを発見しました!よく見ると、目鏡橋とありました。トンネルが二つしかないのにメガネ?しかも橋???これは一体何なんでしょうか?
(みはらっせ特派員:3児のババ・37歳)
A これは”橋”なんです。欄干もないのですが、なかなか橋があると気づかれないのですが、明治41年(1908)に、当時の県道が大改造された時、川をまたぐために架けられた建造物なのです。二重ではありますが、「めがね」の形、アーチ状に石垣をとり、たいへん頑丈にできています(眼鏡ではなく、目鏡というところに注目!)。広島県に石のアーチ橋は4つしか確認されておらず、この世羅の目鏡橋は平成22年4月28日に国の登録有形文化財にも登録されています。もうコンクリートが出まわる時代:何故あえて石で築き上げたかはわかりませんが、そこに先人の土木建築の技を垣間見れる歴史的遺産です。旧国道(今では町道)は桜並木になっており、春には地元の人々の憩いの散歩道にもなっています。

(みはらっせ編集室:世羅も歩いたM子)